

市政トピックス

# 人中心のにぎわいと交流が生まれる街並みへー長町で社会実験

市では、昨年3月に「長町・歩いて楽しい街並みの将来像(ビジョン)」を策定し、旧国道4号(長町商店街エリア)における安全・快適な歩行空間の確保やにぎわいの創出に向けた取り組みを地域とともに進めています。その一環として、11月29日から12月1日の3日間、旧国道4号の道路空間を活用した社会実験「NAGAMACHI STREET ACTIVITY 2024」を実施しました。

この社会実験では、長町駅前から広瀬橋交差点までの約1キロの区間で車線の一部を規制し、道路空間に自転車通行レーンや、テーブルセットを並べたくつろぎとに



道路空間のテーブルセットはもてなまし。写真上は家族連れ、写真下は友人同士で集まりました。



市政トピックス

## 仙台の観光を新たなステージへー観光シンポジウム2024

市では、令和7年度からの新たな観光戦略「(仮称)仙台市観光戦略2027」の策定に向けた検討を進めています。12月1日、これからの観光施策について考える「仙台観光シンポジウム2024」が仙台国際センターで開かれ、会場とオンラインを合わせて約130人が参加しました。

プレゼンテーションの部には郡市長が登壇し、漫画・アニメを活用した観光コンテンツの作成や秋保大滝エリアなど西部地区における自然アクティビティの創出、夜間や冬季における長期イベントの実施など、観光戦略の柱となるプロジェクトについて紹介。11月からの導入を予定している宿泊税を活用し、「これまでの枠にとられない、観光を基軸とした仙台の



プレゼンテーションを行う郡市長

成長を目指す」と説明しました。パネルディスカッションの部では、観光戦略で掲げる「2027年までに宿泊者数680万人」という目標

市政トピックス

ぎわいのスペースを設置。また、地元商店街などによるキッチンカーや飲食・物販販売ブースの出店、イルミネーションイベントも行われ、訪れた方はテーブルセットで食事や会話を楽しみながら、通りの魅力を満喫していました。今後、来場者や沿道店舗を対象に行ったアンケートの結果や交通規制の影響などを検証し、将来の街並み形成のあり方について検討を重ねていきます。

市政トピックス

## 仙台ー香港定期便が13年ぶりに運航開始

仙台空港と香港国際空港を結ぶ定期便が、約13年ぶりに運航を開始しました。12月7日にグレイターベイ航空、12月18日に香港航空が就航。また、1月17日には香港エクスプレスが就航を予定しており、3社合わせて週11便の運航となります。

市では、昨年7月に郡市長が香港を訪問。宮城県など関係機関と連携し航空会社との意見交換を行うなど、定期便の運航再開に向け

市政トピックス

## 誰もが望む生き方をーパートナーシップ宣誓制度導入

達成に向けて、観光関連分野で活躍している事業者らが活発な意見交換を行いました。今後も、観光戦略の策定に向けて着実に検討を進めるとともに、観光関連事業者と連携しながら、より良い施策の形成を目指します。

市では、性的マイノリティーの方々が、自ら望む生き方を選択し、安心して暮らすことができる環境づくりを進めるため、12月10日より「仙台市パートナーシップ宣誓制度」の運用を開始しました。この制度は、互いを人生のパートナーとして生活を営むことを市に宣誓した方々へ受領証を交付するものです。対象はどちらか一方または双方とも性的マイノリティーの方。法的な効力はありませんが、宣誓をすることで一部の行政サービスが利用できるようになります。

引き続き、性の多様性に対する市民の理解が深まるよう取り組みを進めていきます。宣誓の要件や方法、利用できる行政サービスなど、詳しくは市ホームページをご確認ください。

市政トピックス

## 遊びで学ぶ多様性ー仙台ダイバーシティフェスタ開催

た働きかけを行ってきました。今回の定期便就航を皮切りに、仙台・東北のさらなる魅力発信と域内のインバウンド促進に向けた取り組みを進めていきます。

11月16日、せんだいメディアアテークを会場に「仙台ダイバーシティフェスタ2024」を開催しました。このイベントは、さまざまな遊びを通して多様性への理解を深めてもらおうと実施したもので、子どもから大人まで433人が来場しました。



「みんなが遊べるルールをつくってみよう」のワークショップでは、音が聞こえにくくなるヘッドホンや色の識別が難しくなる眼鏡などを身に付けてながらカードゲームをプレイ。通常のルールではゲームを楽しめない人がいることを体感した上で、「音が聞こえない人にも伝わるよう、声で合図する際は、手を使ったサインも同時に行う」など、全員が楽しむためのルールを考えてゲーム

を行いました。参加者からは「みんなが幸せに過ごせる環境を作るためには、自分たちでルールを考えることが大切だと感じた」との声が聞かれました。

身の回りにおけるユニバーサルデザインを紹介する展示ブースでは、展示内容から答えを導く謎解きゲームが行われたほか、参加者がユニバーサルデザインを自由に考えて書き出す企画も実施。「パソコンのエンターキーが左側にもあると便利」など、ユニークなアイデアが寄せられました。このほか、画用紙に思い思いのドット模様を描き、みんなで大きなアート作品を作るコーナーも設けられ、一人一人の個性や価値観の「ちがいを分かち合いました。



自由な発想で描いたドット模様を壁に貼り付け、一つの作品が完成しました！

今後も、さまざまな取り組みを通じて多様性への理解を促進し、国籍や年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、誰もが活躍できるダイバーシティまちづくりを進めていきます。

## 3.11 震災文庫を読む



千葉真弓 / 著 河北新報平成25年1月1日第3朝刊掲載

### 「独眼竜政宗ー慶長の出帆編」

「独眼竜政宗ー慶長の出帆編」は、2024年完結の全3巻のマンガ「独眼竜政宗」本編に収録しなかった幻の作品です。震災からちょうど40年前の慶長16(1611)年、奥州を大津波が襲っていたことが知られると、まさにその時代にいた伊達政宗はどう対応したのかに興味が集まりました。1613年には慶長遣欧使節をメキシコに送り、1614年には大坂冬の陣、翌年夏の陣という時期です。

東日本大震災を語り継ぐための市民図書館に設けた「3.11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

先品に刻まれた動揺と希望  
郷土史漫画家 千葉 真弓



千葉真弓 / 著 NPO法人宮城歴史資料館(宮城資料ネット)刊

### 「漂流茶箱の冒険」

表紙を含め全3ページの4コマ漫画です。震災後の宮城資料ネットによる資料レスキュー活動の中での実話を基にしています。津波にのまれた女川町の蔵から古文書を入れた茶箱が流出し、対岸に漂着しました。見つけた人たちが安全な場所に運び、避難所の人たちが守り、宮城資料ネットに運ばれ、さらに遠く奈良文化財研究所の皆さんによって保全され、宮城に戻りました。

茶箱に古い文書が入っていたら、大切にされていたものだと、多くの人たちが知っていて、あの状況下で守ったのです。茶箱は、その後幾度か博物館や東北大学などの震災関連展示に登場して、文化財レスキューの物語を伝えました。

紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585